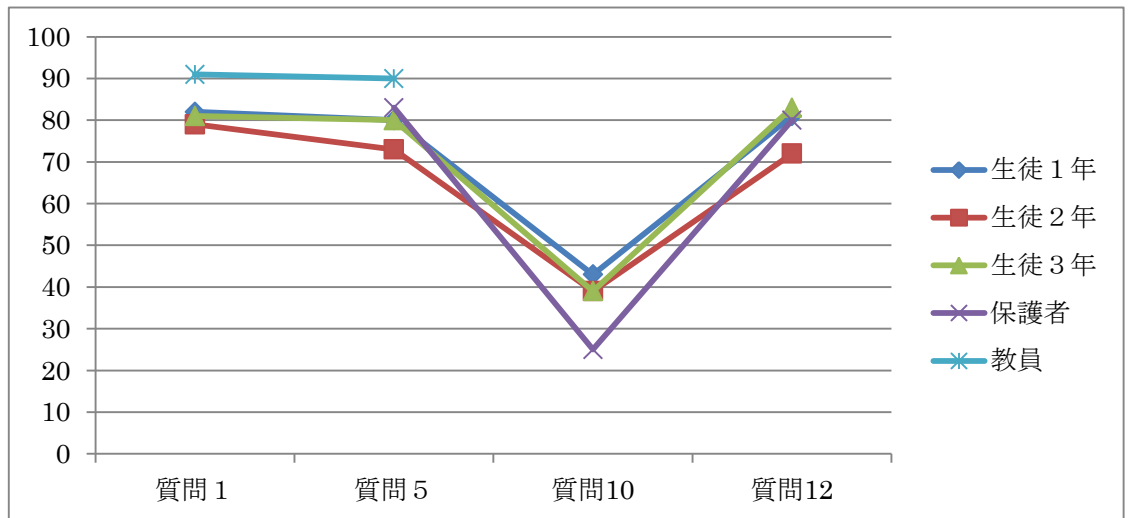


# 大阪府立鳳高等学校

## 平成27年度学校教育自己診断報告書考察とまとめ

### 1. 三者の立場による違い

以下の4つの質問については、生徒・保護者・教員の3者の認識がよく一致する。ここでは「よく」と「やや」の合計で考える（以下「よくやや」）。



質問1；授業中に集中している。

質問5；選択の情報はよく提供された。

生徒・保護者は80%でよく一致する。教員が90%でさらに高い。教員の「手前味噌」（思い込みや見過ごしも）もあるかもしれないが、これらの高評価は「鳳高校の強み」としてどんどん発信していくべきことであろう。

質問10；クラブとの両立ができている。

似たような数値であるが、保護者でやや低い。両立の悩みを保護者に伝えていないのか。ただ、「行事への積極的参加」という点では生徒と保護者の数値は驚くほど一致する。このグラフにはないが、科目選択について、親は子が迷っていることをあまり知らない（子が親に言ってない）。「休日ほとんど勉強しない」についても、1年生徒18%、1年保護者28%で、これは子が親の見えないところで勉強しているのか、子が勉強と思っていることを親がそう思っていないのか。親子のコミュニケーションも、ものによって濃淡がある。

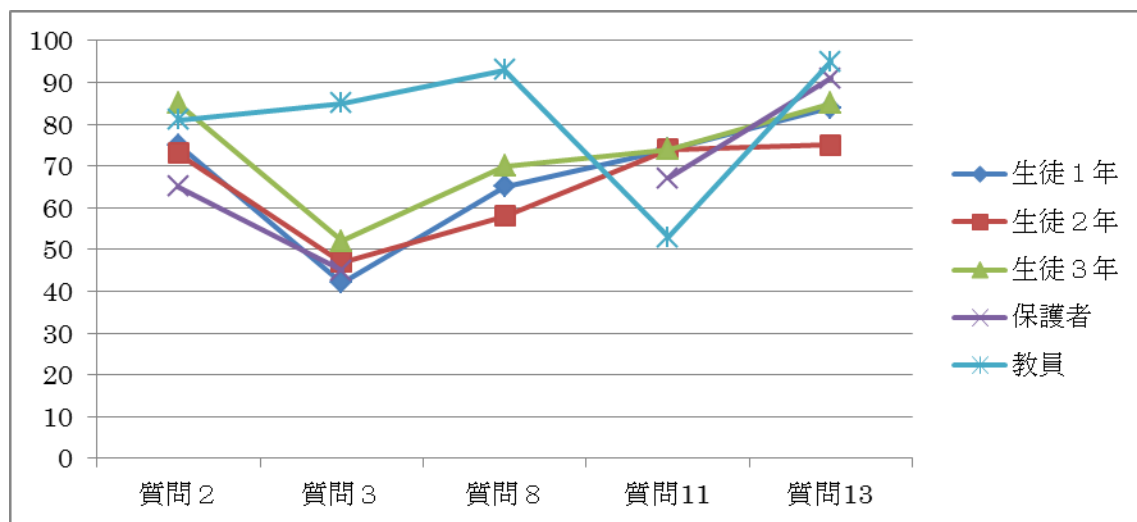
ちなみに、両立に悩む生徒はゆっくりではあるが減少傾向にある。勉強への取り組

み方が変化しているのか、部活動への取り組みが変化しているのか。

質問12；施設・設備が充実していて、学習・部活動の環境が整っている。

概して高評価である。体育館の床はひどいが、グラウンドは府立高校最大とも言われているし、テニスコート6面やナイター設備など、今年着任された先生がびっくりするほどの充実ぶりである。だから逆に、「あまりあてはまらない」が20%前後、「あてはまらない」が5%前後にもなることを見て、いったいどの部分なのか考える必要がある。ハード面からだけでなく、部活動を専門的に指導できる教員の不足や、多忙すぎて手が回っていないことなども見ておく必要があるだろう。

こういうグラフを描くと、似た点・違う点がよくわかる。次のグラフのうち、以下の3つの質問について、3者の認識の違いが大きい。



質問3；授業がわからない場合は先生にきく。

学年があがるにつれて、教員に質問に行く生徒は増えていくが、教員が期待するほどではない（教員への質問は若干形が違ってはいるが）。また、クロス集計によると塾に行っている生徒のほうが、教員にも若干よく質問に行っている。関連して、悩みを相談する相手として、保護者が35%前後（学年があがるほど、減る傾向）、友人が45%前後であるのに対し、教員は5%程度と、振るわない。全体としては保護者を悩み相談の相手にするのが30%内外で、安定している。「友達親子」という言葉もある。

質問8；自治会の行事の自主性。

質問文に違いはあるが、教員と生徒とで20ポイント近く違っている。「自分たちでやった」感を引き出せる工夫が、生徒・教員の双方に必要だろう。

質問11；自己管理能力がある。

例年の研究で、多く取り上げられるテーマの一つである。生徒はおおむね「できている」と感じ、保護者もそれに近く、教員だけが「できていない」としている。とく

に若い教員に厳しい意見が多い。ベテラン教員がいままでの勤務校（たいていは進学校ではない）と比べてしまうのに対し、若い先生（新規採用組を含む）は自身の出身校（たいていは進学校）と比べてしまうからだろう。転勤したと、2年目3年目と年を経るにつれて教員も変化（慣れ）していく。

また、保護者にとっても生徒にとっても、「自己管理能力」の定義が徐々に変わってきているのではないか。学校をめぐる悲惨な事件のニュースや、ニート・引きこもりなどの情報に接して「学校へ行っているだけでもマシ」となっているかもしれない。生徒自らが自己管理能力があると見ている者がこの5年間に10ポイント近く増えた（よくやの計で65→68→73→72→73）。一方の教員は「自己管理能力」と聞くと、服装や遅刻をすぐに思いつく。

本校に古くからいる教員は、「昔は遅刻がもっと多かった」と言うが、現時点で本校の遅刻の多さは進学校の中で群を抜いている。近隣の進学校が年間2000ほどであるのに対し、本校では5000にもなる。遅刻判定の厳しさもあるだろうが、これは多すぎる。一筋の光明は1年生で減ってきていることである。このまま、続く学年も減っていけばいい。ただ、1年生は生活指導部の先生を中心にかなり「手入れ」をし、なんとかなっているが、「自己管理ができていないか」という観点はまた別のものである。

質問13；本校に入学して満足。

保護者・教員は9割越えだが、生徒は1年3年85%、2年75%である。生徒から見ると、入学当初の満足感が2年次には薄れてきていて、このことに保護者も教員も気づいていないかもしれない。ただし、3年次には復活する。

## 2. 9年前と比べたら

学校教育自己診断そのものはもう少し以前からあるが、鳳高校で現下のシステムが始まって9年である。つまり膨大な図表の頭と尻尾を比べた研究である。3年生だけを対象とし、2006年度（単位制以前）、2010年度（単位制1期生が3年生）、2015年度（直近）を比べる。

表1；自分の進路と科目選択の関係は、かつては「マッチング度」として、自己診断の目玉の一つであった。単位制以前には結構高かったものが、単位制初期には落ち込み、また復活している。「思っていたほど自由じゃないじゃないか」の時期を経て、ガイダンス等での指導の効果が現れてきたのであろう。また、広報活動の工夫や、実態（結局似たような時間割になります）が知れ渡ってきたことの表れだろう。現3年生ではよくやの計は90%を越えている。

|    | 2006 | 2010 | 2015 |
|----|------|------|------|
| よく | 60   | 50   | 64   |
| やや | 29   | 36   | 28   |

表2；意外なことに（残念なことに）、昔のほうが高い。「よくやや」で見るとたいして変わらないようにも見えるが、「よく」が単位制以来下げ止まっていることはやはり気になる。単位制以前と以後とで、単位制に対する過度の期待や誤解もあつただろうけど、単位制になってからも、そして数年経過したあとであっても毎年のように「よく」がジリジリと下がってきている。

|    | 2006 | 2010 | 2015 |
|----|------|------|------|
| よく | 50   | 42   | 41   |
| やや | 38   | 41   | 44   |

クロス集計すると、行事参加への積極性と入学満足度は正の強い相関がある。

表3；3年生なので、学習や成績、進路や科目選択に悩むのは当然であろうが、それに押される形で「人間関係」で悩んでいるものが減っている。2012年以降漸減し、ついに5%までになってしまった。スマホ・SNSで繋がっているから安心していいのか、人間関係で悩むこと自体をマイナスにとらえているのか。昔ほど深い（濃い）人間関係を欲していないということもあるかもしれない。深い関係は「怖い」、踏み込むのも踏み込まれるのも嫌だ、あっさりがいい…こういう感じなのかもしれない。それにしても、はたから見ている、また世上巷間のニュースに接するにつけ、この結果には違和感がある。

|         | 2006 | 2010 | 2015 |
|---------|------|------|------|
| 学習・成績   | 46   | 74   | 65   |
| 人間関係    | 15   | 15   | 5    |
| 進路・科目選択 | 29   | 24   | 20   |

表4；塾に行っているものは、この10年間で、1年生は10%台から20%台へ、2年生は20%台から30%台へ、3年生は50%台から60%台へ明らかに増えている（70期が現1年）。1年生の学習時間が増えているのも、塾での学習時間が増えた結果ではないかと思えるような数字である。勉強は塾に頼り、勉強と部活動の両立にあまり悩まない生徒が、いまの偽らざる姿だろうか。

|     | 1年 | 2年 | 3年 |
|-----|----|----|----|
| 61期 | 16 | 29 | 58 |
| 62期 | 19 | 20 | 58 |
| 63期 | 15 | 27 | 62 |
| 64期 | 17 | 28 | 62 |
| 65期 | 17 | 25 | 61 |
| 66期 | 20 | 25 | 60 |
| 67期 | 18 | 30 | 64 |
| 68期 | 23 | 26 | 69 |
| 69期 | 23 | 33 |    |
| 70期 | 24 |    |    |

塾に行く動機は、不安が一番だろう。学校の授業がわからなくて行っているというのが多いと思われる。塾によっては個別の学校の定期試験対策までやっているという。

最近の塾は、従来のように先生が前に立って講義を下すという形式よりも、自学自習タイプ、必要に応じて先生に質問できるタイプが増えてきているようである。大人数の中にいると不安を感じやすい生徒も増えてきている。少人数→マンツーマン→自学自習（質問あり）と快適環境が変わってきている。

### 3. 携帯・スマホ

表5 A ; 本年度、新設した項目であり、社会的関心も高い。全国平均を見ると、男子高校生 3.8 時間、女子高校生 5.5 時間である。ここでは男女別の数字はないが、鳳高校は全国と比べて、まだマシなほうといえそうである。また1・2年と3年とで如実に違う。それにしても1年生も2年生も1日に5時間以上も使っているものが10%もいるのは驚きである。

スマホを長く使っている生徒ほど、授業集中も授業理解も薄くなっているかと予想していたが、よく使っている者の間では、たいした数字にはならなかった(使用1時間越える部分では、あまり変化がない)。ただ、あまり使っていない生徒(1時間未満)は集中も理解も顕著に高かった。

表5 B ; ウズミのところが大きい数字で、スマホ長いほうが勉強時間は短いという傾向がある(当然だろう)。むしろ驚くべきことは、この傾向がそれほど顕著ではないということだ。スマホを触っていることは、生徒にとって環境音楽が流れているようなものなのかもしれない。

もう一つ注目されるのは、5時間以上もスマホを触っていて、しかも平日に3時間以上勉強(講習や塾を含む)している者がいることだ。「ながら勉強」というよりも、実はスマホを触っている時間を勉強時間に繰り込んでいるのかと考えられる。わからないこと

をネットで検索する、あるいは友達に尋ねる…スマホで勉強という、従来の発想ではとらえられない勉強方法が広がりつつあるのかも知れない。

OP委員会の討論の中で、こんなエピソードが飛び出した。電車の中で、高校生がスマホで「Siri」に古典の質問を語りかけ、機械が音声で答え、生徒が礼を言う…そ

表5 A. 携帯・スマホなど1日平均使用時間(%)

|       | 1年 | 2年 | 3年 | 計  |
|-------|----|----|----|----|
| 5時間以上 | 12 | 10 | 7  | 10 |
| 3～5時間 | 26 | 24 | 8  | 20 |
| 2～3時間 | 32 | 37 | 19 | 30 |
| 1～2時間 | 21 | 22 | 35 | 26 |
| 1時間以内 | 4  | 5  | 21 | 10 |
| 30分以内 | 3  | 1  | 9  | 4  |
| ない    | 2  | 1  | 1  | 1  |

表5 B. 携帯・スマホなど1日平均使用時間と平日学習時間(実数)

| 学習時間<br>スマホ | 3時間以上 | 2<br>↓<br>3時間 | 1<br>↓<br>2時間 | 1時間未満 | しない | 計   |
|-------------|-------|---------------|---------------|-------|-----|-----|
| 5時間以上       | 17    | 10            | 19            | 20    | 24  | 90  |
| 3～5時間       | 14    | 36            | 59            | 49    | 23  | 181 |
| 2～3時間       | 29    | 49            | 98            | 63    | 35  | 274 |
| 1～2時間       | 77    | 50            | 66            | 28    | 19  | 240 |
| 1時間以内       | 53    | 9             | 15            | 11    | 3   | 91  |
| 30分以内       | 20    | 7             | 4             | 4     | 3   | 38  |
| ない          | 6     | 1             | 0             | 1     | 1   | 9   |

の現場を見たというのだ。つまりスマホは勉強道具であり、電車の中で勉強しているという構図である。また、ある担任がクラスで「ノースマホデイ作ろうか」と呼びかけると、「ありえへん！」といっせいに返ってきたそうだ。スマホは勉強道具であるばかりでなく、もはや体の一部になっているのではないか（ちょっと言いすぎか）。ここ4～5年のことであるが、一昔前の近未来小説に出てきそうな「怖い」話である。

さらに精密に見ていくと、スマホ時間と学習時間の関係は、休日のほうがより大きく影響していることがわかる。

また、スマホ時間が長い生徒ほど、自己管理能力について自ら低い評価を下している（そんなに顕著ではないが）。それなりに自覚しているということも言える。

#### 4. 70期生（現1年生）

今回のメンバーに1年生の授業担当が多くいたこともあって、1年生に関心が集中した。そしてかなり特徴的な数字を得た。下表はいずれも、質問項目に対する「よくやや」の合計で、すべて1年生だけの数値（%）である。

| 06年         | 07年 | 8年  | 9年  | 10年 | 11年 | 12年 | 13年 | 14年 | 15年 |   |     |
|-------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|---|-----|
| 61期         | 62期 | 63期 | 64期 | 65期 | 66期 | 67期 | 68期 | 69期 | 70期 |   |     |
| 74          | 73  | 70  | 75  | 74  | 74  | 76  | 82  | 81  | 82  | % | 第1位 |
| 単位制過去7年間の平均 |     |     |     |     |     |     |     |     | 76  |   |     |

表6から、70期生は過去10年間のどの1年生よりも授業中の集中度（自己評価）が高い。単位制の過去7年間の平均と比べてもかなり高い。ただし、直近3年間は80%を超えているので、70期生の特徴というより、この3年間の生徒の変化と見るほうがいだろう。

| 06年         | 07年 | 8年 | 9年 | 10年 | 11年 | 12年 | 13年 | 14年 | 15年  |   |     |
|-------------|-----|----|----|-----|-----|-----|-----|-----|------|---|-----|
| 70          | 62  | 61 | 64 | 59  | 62  | 58  | 72  | 68  | 75   | % | 第1位 |
| 単位制過去7年間の平均 |     |    |    |     |     |     |     |     | 63.4 |   |     |

表7についても、同様のことが言える。授業理解はこの10年間の第一位ではあるが、この3年間は高目に推移している。

授業集中と授業理解について高目になる過去2年間（13年と14年）の教職員の動向を見てみると、「生徒は熱心」が「94、96」であるのに対し、15年は「91」と低くなる。「生徒は理解している」も、過去2年間「87、86」に対し、15年は「81」と低くなる。あわせて考えると、今年の1年生は、生徒たちの自己評価は高いが、教員

はそう見ていない、むしろ危機を感じているということになる。

授業以外の項目についても、70期生は積極的である。

「コース選択や科目選択に迷った(迷っている)」72%で第1位(過去7年間の平均60%、以下同じ)。これはむしろ積極的と評すべき項目で、安易に決めつけず、あれこれ考えている。

「選択のための情報はよく提供された」80%で第2位(75%)。豊かな情報を処理し切れているのだろうかという不安もあるが、とにかく情報に接している。

「自分の進路にあった科目が選択できる」93%で第2位(91%)。複雑で多様な科目を理解できているのは、説明会や個別のガイダンスが奏功しているのだろう。

「進路決定の資料や情報を集める努力をしている」51%で第2位(41%)。オープンキャンパスや模擬試験、進路指導部や学年団がやかましく言っている面もあるが、ここでは自主的な努力への自己評価とも言える。

「自治会の行事は自主性・連帯感を高めることに役立っている」65%で第1位(54%)。「積極的に行事に参加した」88%で第1位(78%)。競技会(運動会)や鳳高祭(文化祭)はいうに及ばず、球技大会や百人一首大会などでも思いっきり頑張る1年生がいる。

「自己管理能力は十分ある」74%で第2位(66%)。授業・行事だけでなく、高校生活全般に自信がうかがえる。

「本校に入学して満足している」84%で第1位(78%)。これまでの統計からも当然のことか。これだけ1位2位の項目が多い学年は他に例を見ない。

逆に低い項目を見ると、「クラブと勉強の両立で悩んでいる」43%で10年間で第9位(50%)。あまり悩んでいない。

「1. 三者の立場による違い」でも触れたが、勉強やクラブへの取り組みそのものの変化もあるので、若干心配な面もある。

表8によると、進路についてよく迷ったとする生徒(1年生限定)ほど、よく情報提供されたと考えている。逆に言うと、情報が豊かだと思っている生徒ほど、よく考えている。情報にあまり接していない生徒は迷うことも考えることもない。

表9も同工異曲であるが、進路についてよく迷ったとする生徒ほど、自分にあった科目が選べるとしている。前述の、「迷うことは積極的である」とする根拠でもある。

| 質問4  |   | 1  | 2   | 3  | 4 | 総計  |
|------|---|----|-----|----|---|-----|
| 進路迷い | 1 | 39 | 65  | 14 | 2 | 120 |
|      | 2 | 25 | 63  | 17 | 2 | 107 |
|      | 3 | 14 | 32  | 14 | 2 | 62  |
|      | 4 | 11 | 7   | 10 |   | 28  |
| 総計   |   | 89 | 167 | 55 | 6 | 317 |

| 質問4  |   | 1   | 2   | 3  | 4 | 総計  |
|------|---|-----|-----|----|---|-----|
| 進路迷い | 1 | 67  | 43  | 5  | 3 | 118 |
|      | 2 | 54  | 44  | 7  | 2 | 107 |
|      | 3 | 39  | 20  | 2  | 1 | 62  |
|      | 4 | 18  | 7   | 1  | 1 | 27  |
| 総計   |   | 178 | 114 | 15 | 7 | 314 |

## 5. おわりに

単位制に改編されて8回目の新入生（70期生）を受け入れた。

| 生徒用        |   | 06年<br>2年 | 07年<br>2年 | 08年<br>2年 | 09年<br>2年 | 10年<br>2年 | 11年<br>2年 | 12年<br>2年 | 13年<br>2年 | 14年<br>2年 | 15年<br>2年 |
|------------|---|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
|            |   | %         | %         | %         | %         | %         | %         | %         | %         | %         | %         |
| よくあてはまる    | ① | 57        | 57        | 63        | 45        | 54        | 48        | 39        | 49        | 56        | 49        |
| ややあてはまる    | ② | 35        | 34        | 29        | 40        | 34        | 38        | 49        | 40        | 36        | 43        |
| あまりあてはまらない | ③ | 6         | 6         | 5         | 12        | 9         | 9         | 11        | 9         | 6         | 7         |
| あてはまらない    | ④ | 2         | 2         | 2         | 3         | 3         | 4         | 2         | 3         | 3         | 1         |

「2. 9年前と比べたら」ではマッチングをテーマに3年生対象の表を掲載したが、もう少し精密に、今度は進路で一番悩む2年生を対象にした表（表10）を見てみる。08年に単位制の切っ先として入学した63期生が、09年には2年生になる。ここで、マッチング度が下がる。以下、ずっと低位であるが、このところ回復基調に見える。

このことは、小論のあちこちに見られる傾向であり、概して「単位制が定着してきた」といえないだろうか。入学前の説明会や見学会、入学後の説明会やガイダンス、いろんなところで単位制の長所短所を見てきた生徒たち。また、暗中模索状態から年々歳々細かい改良を加え、生徒の進路実現と高校生活の充実に取り組んできた教員集団。ここにきて一つの完成形に近づいてきたようにも感じられる。そして、そのことを劇的に表現しているのが70期生ではないだろうか。

ただ、完成に近づいたということをもって、安堵してはならない。それはとりもおさず制度疲労の始まりだからである。

そして、安定・定着が見えてきたころ、また上からの制度改訂が降ってくる。来年度入試（今2月だから、来月には実施される）から、鳳高校も後期入試一本になる。単位制改編ほど抜本的な変化ではないだろうが、入学してくる生徒層にも違いが生ずることだろう。それがどれほどのものなのかは、今はわからない。

実は、8年前の大改編でも、生徒層の変化はたいしたこと無かったという見方が支配的であり、今回もまたそうなのかも知れない。他方、8年前からじわじわ変わって来ており、今回もまた変化を加速するだろうという見方もある。

どっちになるのか、予断を許さないが、こういうときだからこそ、この継続的な数字との格闘が有意義なのだろう。ちょっと振り返って、過去の『学校教育自己診断報告書』を見てみるのもいいかもしれない。2004年ぶんから残っている（現行システムになった06年からは完璧）。